



佐伯市（さいきし）について

佐伯市は宮崎県延岡市に接する大分県の南東部に位置し、903km²と九州一広い面積を誇ります。

かつて佐伯藩2万石の城下町として栄えたこの地には、歴史薫る町並みが今も残っています。

地勢は、九州山地から広がる山間部、一級河川の番匠川(ばんじょうがわ)下流に広がる平野部、リアス海岸の続く海岸部に大きく分けられます。山間部は「祖母傾国定公園」に、海岸部は「日豊海岸国定公園」に指定され、美しく変化に富んだ自然が広がっています。平成29年6月には、「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」として、佐伯市宇目地域が登録されました。

本市は、将来にわたり持続可能なまちを創るため、「経済・社会・環境」の3つの側面に配慮した取組（佐伯版SDGs）を推進しており、さいきオーガニックシティ「人と自然が共生する持続可能なまち（循環型共生社会）」の実現を目指しています。

本市では、現在5人の地域おこし協力隊が有機農業の実践や国際交流の推進、地域の特産品を活用した商品開発、漫画を活用した地域情報などの発信などに取組んでいます。また、19人のOB・OGが任期満了後も本市に定住し、農業や漁業、ゲストハウスの経営などに取組んでいます。



宇目地域の大自然の中での
「キャニオニング」



佐伯市民のソウルフードの
「ごまだしうどん」



子どもたちや撮り鉄の聖地となっている宇目地域の秘境駅「JR重岡駅」や「JR宗太郎駅」

【佐伯市における文化芸術活動】

佐伯市は、広大な市域を背景に生まれ、継承されてきた「佐伯文化」を市民とともに再発見し、それぞれの地域が育んできた魅力を大切にしながら、どの地域でも市民が文化芸術に親しみ、楽しむことができる「楽園ミュージアム」の実現を目指しており、令和3年3月に「佐伯市 文化芸術交流のまちづくり計画」を策定しました。

また、子どもたちの芸術を愛する心と、豊かなコミュニケーション能力の育成を目的として、平成26年には表現教育事業である「佐伯市こどもミュージカル」が17校33人の子どもたちによりスタートしました。

平成30年度には2018おおいた国民文化祭・全国障害者芸術・文化祭において、プロの芸術家たちと市民が共演したり、海を越えて沖縄県浦添市ゆいゆいキッズシアターの中高生を招へいし「タカラとワカ海を越える軌跡」を総勢180人の演出を創り、日本最大の文化の祭典を盛り上げました。



地元の成人式での演出



国民文化祭での演出

「タカラとワカ海を越える軌跡」

また、歴史ある街並みも魅力の一つであり、江戸時代に佐伯藩の初代藩主である毛利高政公が築城した佐伯城（別名：鶴谷城）の跡地である城山が現代では、市民の憩いの場となっています。

城下には、明治の文豪である国木田独歩が教師として、約10か月滞在した坂本永年邸が「城下町佐伯国木田独歩館」として整備され、現在でも観光客に人気のスポットとなっています。

平成29年度～令和元年度にかけて、アニメ「文豪ストレイドッグス」とコラボした企画展示やスタンプラリーが開催され、市外・県外から女性を中心とした多くの作品のファンが来佐され佐伯で歴史を感じるひとときを過ごされました。



城山頂上の佐伯城天守閣跡地



城下町佐伯国木田独歩館

さらには、令和2年10月31日にホールを有する多機能な複合施設として、さいき城山桜ホールがオープンし、「市民の想いをかたちに」するため市民参加の組織による市民主導の企画提案などが行われています。

・令和元年度 佐伯市地域おこし協力隊
活動報告会



・さいき暮らしな日
(移住者向けHP)



・佐伯市文化芸術交流の
まちづくり計画



・祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク
(インスタグラム)



・佐伯市市街地グランドデザイン



・佐伯市地域おこし協力隊
Facebook



・おこしくださいき
(佐伯市応援YouTube)



・さいき城山桜ホール
(公式ホームページ)



・うめキャンプ村そらのほitori



・佐伯市市街地グランドデザイン
第1期実施計画

